

【実践報告】

岐阜大学ラーニング・コモンズ開設後 4 年間の軌跡

その成果と今後の課題

服部 恭子¹，堀口 拓治²，高橋 悠菜¹

¹⁾ 岐阜大学学務部教務課

²⁾ 岐阜大学大学院自然科学研究科

要旨

岐阜大学では平成 27 年にラーニング・コモンズ「アカデミック・コア」を開設した。設置にあたっては、企画・構想の段階から、教員、職員、学生が関与した。とりわけラーニング・コモンズが、単なる自習室とならないよう様々な工夫を凝らした。結果として、当初の想定を上回る利用者数を記録することとなった。そして、開設後 4 年を経た現在、今後の改善に向けた課題も明確になった。

キーワード：ラーニング・コモンズ，学習（学修）支援，学生スタッフ，SA，TA

1. ラーニング・コモンズ「アカデミック・コア」オープン

アカデミック・コアとは

岐阜大学では、平成 27 年度にラーニング・コモンズ「アカデミック・コア」を開設した。

平成 24 年の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて：生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」、いわゆる「質的転換答申」が公表されて以降、我が国の大学では、学生の能動的な学びを促すことがますます重要視されるようになっていく。

こうした主体的な学習を推し進める上では、教員による教授方法および学生の学習方法の変更はもとより、それらを実践するための施設設備を整えることが大事である。とりわけ授業時間以外の空きコマに、学生たちが集い、複数で意見を交換、共有しながら学びを深める空間が不可欠と言える。

岐阜大学では従来、こうした学生の意欲的な学びを支援する場として主に図書館がその機能を果たしてきた。岐阜大学の図書館は数多くの書籍や資料を所蔵しており、個々の学生

が、書籍から吸収した知識をもとに課題解決に向けた学習を行い、あるいは数多くの書籍に触れることで新たな事柄に興味を持ち始めるなど、個人の意欲的な学びを支援する上で、図書館は重要な役割を担っている。加えて当該図書館は、早い時期からその一角に「ラーニング・コモンズ」と称するスペースを設けるなど、学生の能動的な学習の実現に多大な貢献を果たしてきた。

しかしながら一般に、大学の図書館とは、静かに読書をし、個人で学習するところといったイメージが強く、そのため、お互いに声を出しながら行うことが多いグループ学習専用の部屋を、図書館以外のどこかに設置する必要を痛感していた。図書館以外の岐阜大学の施設には、グループで資料などを広げながら問題解決に取り組み、さらに議論やプレゼンテーションが自由にできるような空間および設備が少なかったことも、この認識を強くした。

そこで、ラーニング・コモンズの設置を決定し、平成26年度の国立大学改革基盤強化促進費の要求を申請した。事業名は「能動的学修基盤強化に必要となるアカデミックコモンズの整備」と題した。幸いこの申請が認められ、ラーニング・コモンズの整備が実現した。

そして岐阜大学では、このラーニング・コモンズに「アカデミック・コア」と名前を付けた。よって以下では特に断りのない限り、岐阜大学のラーニング・コモンズを指してアカデミック・コアと表現する。

コンセプトの明確化

学生が授業時間以外での自主的な学びを協働で取り組む空間というコンセプトのもと、学生の利用イメージを想像しながら、アカデミック・コアに必要となる道具や設備の検討を行った。

具体的には、グループで話し合いながら気軽に自由に学習できるよう、ソファ席や移動可能なテーブル席を数多く配置した。テーブル以外にも、グループ内の意見やアイデアの共有、視覚情報を用いながらのディスカッションが出来るよう、移動可能なホワイトボードを数多く準備した他に、プロジェクター付きホワイトボードや大型スクリーンを導入した。また、学生が学習でつまづいた時に相談できるよう、学習相談用のカウンター席を入口から直ぐ見えるところに配置した。

設計当初は、一人用席の配置も検討された。しかし、一人用の学習スペースならば、既存の図書館にたくさんあること、また、アカデミック・コアでは、従来の図書館で見られるような「静かな学習」ではなく、グループ内で議論やプレゼンテーションなど互いに声を出し合いながら学びを深めて欲しいとの思いから、一人用席の配置は見送った。

オープン記念式典

平成27年（2015年）6月1日（月）、図書館1階にアカデミック・コアがオープンした。同日、オープン記念式典が図書館1階のアカデミック・コア正面玄関前で催され、大勢の教職員が参列した。式典の中で、アカデミック・コア学生スタッフ（以下、学生スタッフと略す）

の加藤悠馬が、アカデミック・コア開設に向けての抱負を語った。式典全体の司会は、これも学生スタッフの立川彩子が務めた。

2. アカデミック・コアの紹介

アカデミック・コアの概要

場所は図書館1階南側、正面入り口の手前にはテラス席が設けられており、岐阜大学柳戸キャンパスのシンボルである「丸池」がすぐ目の前にある。開館時間は、平日の10時から19時半で、土日祝日は休館している。平成30年度より、夏休みなど長期休業中のみ図書館の学休閉館時間（17時）と合わせるようにしている。

広さは、面積およそ462平米で、自由度の高いメインフロアと個室のグループ学習室に分かれる。メインフロアの座席数は4人掛けボックス席が7つ、可動式テーブル・椅子は130席ある。グループ学習のために用いるグループ学習室は合計で4部屋あり、その内訳は6～10人利用可能のものが2部屋、3～5人利用可能のものが2部屋である。

ディスカッションやプレゼンテーション練習、学習を促す備品として、プロジェクターは天井や壁面に備え付けた物が3台、キャスター付きのホワイトボードと一体となった可動式の物が2台、この他、大型モニター1台、ボックス席5カ所にそれぞれ中型モニターが設置されており、パソコンやタブレットに繋ぐことができる。またアカデミック・コアでは、岐阜大学情報館の無線LAN（OpenLAN）が利用可能である。グループ学習室は、すべての部屋にモニターとホワイトボードが設置されており、周りを気にせず声が出せるため、発表練習や面接練習に多く利用されている。アカデミック・コアのメインスペースには「学びの道具コーナー」を設置しており、学生は、ホワイトボードマーカー、付箋、水性マーカーのセット、模造紙などを自由に使用できるようになっている。また、鋏やステープラーの貸し出しも行っている。

アカデミック・コアの運営

岐阜大学教育推進・学生支援機構の中の「学修支援部門」の教員が運営を担っている。また、アカデミック・コア専任の常駐スタッフ 2 名を学務部教務課付の非常勤職員として採用している他、学生スタッフ（SA：学部生、TA：大学院生）を毎学期 10 名前後採用しており、これらの者が利用する学生の応対に当たっている。

メインフロア利用の事前予約や借り切りの申込は一切受け付けていない。これは、アカデミック・コアが決して学内の様々なイベントを実施するような多目的施設ではなく、あくまで学生がいつでも気軽に立ち寄って学習できることを第一に考えていることによる。ただし例外として、1年次生を対象とした必修教養教育科目の一つ「初年次セミナー」の1コマ「図書館ツアー」についてのみ、メインフロア東側の貸し切り利用を許可している。これは当該授業の内容に、図書館1階に位置するアカデミック・コアの紹介が含まれているためで

ある。一方、グループ学習室の利用には予約が必須となっており、少しでも多くの学生に利用してもらえるよう、1グループにつき1コマ（90分）のみ予約を認めている。最近では、長期休業中を除くと3限目、4限目は予約がすべて入る状況である。

周知について

オープン当初は、利用者数が目標に届くのか、学生にアカデミック・コアの存在が周知できているか、この点に関して手ごたえが感じられなかった。そのため、アカデミック・コアについて学生や教職員へ伝える方法を検討する必要があった。

周知方法として、まずはリーフレットを作成することにした。これに伴いキャッチコピーを考えることとなり、学修支援部門の教員がアイデアを出し、その中から次の三つが決定された。「創造的☆学習広場」「学びは仲間と創造すれば楽しくなる」「つながる学習 広がる知識」。どれもアカデミック・コアのイメージにふさわしく、爾後イベントチラシなどを作成する際に使用している。

二つ目は、学生スタッフによる発信である。初めは岐阜大学のラーニング・マネジメント・システム「AIMS-Gifu」にブログを設け、後には紙媒体で「アカデミック・コア通信」というニューズレターを作成している。このニューズレターは、令和元年12月時点でVol.50を迎えた。アカデミック・コアの魅力や、学生スタッフが開催する学習イベントの案内などを掲載している。

そして、平成29年度は正面入り口前のテラスに掲げる「学習相談」「イベント開催」の旗を、学生スタッフがデザインして作成した。その旗には、イメージキャラクター「コア子」も登場している。「コア子」のベースは、初代の常駐スタッフがブラックボードに描いた女の子の絵である。その絵の評判がととてもよかったため、「コア子」と名付けたうえで現在までイメージキャラクターとして用いている。

宣伝効果があったのか、アカデミック・コアの利用者数はオープン初年度から年々増加している。利用者からは、「空きコマにグループで学習する機会が増えた」「みんなで協働学習することの楽しさに気づいた」など、アカデミック・コアが多くの学生に周知されただけでなく、アカデミック・コアでの学習経験が、学生に、グループで自主的に学習することや学びの楽しさを実感させるきっかけになったという声が寄せられている。

ルールについて

アカデミック・コアの利用に関するルールとして決定していたのは、食事（菓子類を含む）は禁止、飲み物はどんな容器でも許可するという一点のみであった。しかしながらオープンすると利用について様々な問い合わせが寄せられたため、その都度、学修支援部門に確認することで対応していた。こうした経験から、やはり利用規約が必要ということになり、アカデミック・コア運営会議で協議し定めた。細かいルール作りは、実際に学生の応対をする常駐スタッフが、当時、学修支援部門長であった加藤直樹教授に相談しながら行った。ルール

作りに関しては、運営側の都合よりも、利用する学生の目線で考えることを意識した。

殊の外、大変であったのが、グループ学習室の貸し出しルールであった。1グループにつき1コマ（90分）を利用時間としたが、続けて利用したいという学生が多く、次の予約が入っていない場合に限り延長を認めているが、延長を許可した後、新規で利用申請にくる学生が利用できないことも度々あり、どの時点で延長を認めるかなど何度も見直した。

備品について

実際利用が始まると、学生から様々な問い合わせがあった。例えば、学生が持参したパソコンではHDMIケーブルのソケットがないため、アカデミック・コアに設置してあるモニターに接続できない、スマートフォンをモニターに投影したいが専用のアダプターがない、などである。学生からの問い合わせの都度、学務部教務課に相談しアダプターやケーブルなど必要なものを順次揃えていった。現在では、備品に関する要望は減り、様々な学生のニーズへの対応ができていると考える。

利用マニュアルについて

前にも述べたが、アカデミック・コア内で岐阜大学情報館の無線LAN（OpenLAN）が利用できる。パソコンを使用する学生の利用も多く、OpenLANの設定方法の問い合わせが頻繁にある。問い合わせに対しスムーズに対応ができるよう、画像を取り入れた「設定方法のマニュアル」を貸し出している。また、モニターにパソコンの画面が映らない等の問い合わせも多く、「外部ディスプレイ設定マニュアル」をモニター近くに掲示している。このようなマニュアルは、オープン当時の学生スタッフが作成したものを、変更箇所を修正しながら現在も活用している。

3. 学生スタッフ

学生スタッフとは

学生スタッフとは、アカデミック・コアにおいて岐阜大学の学生の能動的な学びをサポートする者の通称であり、本学の学部生および大学院生がこの任に当たっている。学生に対する学習指導、学習に関するイベント開催、アカデミック・コアの運営サポート、さらに岐阜大学のラーニング・マネジメント・システムであるAIMS-Gifuに関する業務を行っている。

この学生スタッフは、一般にSA（Student assistant：学部生）やTA（Teaching assistant：大学院生）と称される存在であり、岐阜大学においてもこのように呼ぶこともある。身分は岐阜大学の非常勤職員である。

募集・採用方法について

大学院生、学部生問わず毎学期、募集している。初代の学生スタッフは、アカデミック・

コアオープン前からAIMS-Gifu学生スタッフとして活動していた7名が、そのままアカデミック・コアの学生スタッフとして活動を開始した。その後、経済的に困窮した学生に対する支援制度である「ワークスタディ」の枠で1名を採用、8名体制となった。現在では、学期ごとに学生スタッフを公募し、応募者に面接を行い、継続や新規の採用を行っている。

表1 学生スタッフ学期ごとの人数

	H27 後期	H28 前期	H28 後期	H29 前期	H29 後期	H30 前期	H30 後期	R1 前期	R1 後期
大学院生	1	3	2	5	5	3	4	2	1
学部生	7	5	7	4	4	7	9	7	7

研修について

名古屋大学、金城学院大学、愛知大学、3校それぞれのラーニング・コモンズへ研修を兼ねた視察を行った。

平成28年10月、名古屋大学附属図書館ラーニング・コモンズに事務職員1名、常駐スタッフ1名、学生スタッフ4名で訪問した。名古屋大学の学生スタッフが講師を務めるイベント「卒論の書き方」に参加し、イベント後にはその学生スタッフの話を聞くことができ、今後のイベントに生かした。また、名古屋大学では、学習相談の対応をしているカウンターの近くに本棚が設置されており、アカデミック・コアでも学習相談で活用できる本を充実させたいと学生スタッフから要望があった。視察後すぐアカデミック・コアに置きたい本の候補をあげ、教職員に選定してもらった本を購入、本棚も設置した。

同年11月、金城学院大学ラーニング・コモンズには、事務職員1名、常駐スタッフ1名、学生スタッフ4名で訪問した。ラーニング・コモンズの入り口には、「岐阜大学アカデミック・コアのみなさん、ようこそ」とウエルカムボードが用意されており、我々職員、学生スタッフ共々とても感激した。また、利用する学生への心配りが随所に見られた。例えば、貸し出しできる備品がカウンターに行けば目で確認できること、学生に対して行ったアンケートの結果に基づき、学習で困っていることへの対策をホワイトボードに掲示してあること、出口には「忘れ物ありませんか」というプレートが貼ってあることなどである。

これを見習い、アカデミック・コアにおいても貸し出しできる備品を案内するなど、簡単なことから取り入れていった。また、机や椅子が整然と並んでいることも、利用する学生への心配りと感じられ、訪問したアカデミック・コアの学生スタッフたちは「さすがは女子大」と話し、職員も、金城学院大学のラーニング・コモンズが、運営側の努力によってそのような状況が実現していることを感じた。上記のように、見習うべきことが多くあった視察であった。

翌年、平成29年12月には、愛知大学ラーニング・コモンズへ、事務職員1名、常駐スタッフ1名、学生スタッフ2名で訪問した。学生への学習支援として学習相談を外部の専任スタ

スタッフ数名で対応しているとのこと。入り口正面の柱（黒のマグネットボード）に専任スタッフの得意分野が分かりやすく掲示されており、学生は質問用紙に相談内容を記入しカウンターへ提出、順番に学生の相談に対応していた。ラーニング・コモンズのイベント情報、図書館の新着図書情報などもそのボードに掲示されており、とても目をひき、訪問した学生スタッフはアカデミック・コアでも取り入れたいと意欲をみせていた。フロア利用の主な用途としては、パソコンの貸し出しをしているため、レポート作成やパワーポイントの作成、プレゼンテーションの練習、また模擬裁判の練習のための利用が多いとのことだった。イベントは1年に8回ほど開催されており、毎回20名から40名の参加があるとのこと。集客方法の一つとして、講義の開始前に教員の許しを得てイベントのチラシを配布したりしているそう。アカデミック・コアのイベントでは、学生の参加が思うように伸びないため、取り入れていければと考えている。

他大学視察の報告としては、平成29年1月20日（金）開催の学修支援部門FD・SD「学習支援空間としてのラーニングコモンズ」において、学生スタッフの佐藤直紀と川上哲が発表した。また、平成30年1月19日（金）開催の学修支援部門FD・SD「協同による学習支援の課題を整理する：チーム指導と能力開発」では、同じく学生スタッフの尾関康弘とHAN XINTONGが視察報告を行った。

他にも、学習相談やイベント開催時の学生スタッフの対応力向上のため、岐阜大学図書館開催の「論文の探し方講習会」、保健管理センター開催の「いこまいセミナー」の1コマ「コミュニケーションのコツ」などに参加した。

4. 学習支援

学習支援系イベント

学習支援の一環として、学生スタッフが企画から講師までを務めるイベントを開催している。平成27年度8回、平成28年度13回、平成29年度18回、平成30年度30回、令和元年度は12月までに19回行った。内容はレポートの書き方、プログラミング、TOEIC、韓国語、テスト対策講座など、一風変わったところでは「アクティブ・ラーニングについて考えよう」など学生スタッフの得意分野を発揮して開催している。

学習相談

学習相談の対応は、学生スタッフが入口正面のカウンターで毎日行っている。当初は平均月に4、5人の相談人数であったが、平成30年度より少しずつ相談数が増えはじめ、今年度（令和元年）4、5月は、ほぼ毎日相談に立ち寄る学生の姿があった。4月の新入生ガイダンスで、学修支援部門の教員がアカデミック・コアで学習相談を受け付けていることを宣伝したことが大きく影響していたようだ。また、アカデミック・コア内のスタッフ紹介コーナーを壁面ホワイトボード（縦120cm×横240cm）に設け、学生スタッフの自然な姿のスナップ写

真と得意分野、勤務時間を掲示し始めた。来館してきた学生が見ている姿を、よく見かけるようになった。

カウンターでの対面相談の他に、質問シートの相談も承っている。質問シートに相談内容を記入してもらい、手作りの赤いポストに投函する方法だ。投函された質問は学生スタッフと常駐スタッフで相談しながら回答し、記入した質問シートはカウンター近くのホワイトボードに掲示している。また、こちらは学習面だけでなく生活面の相談もあり、専門外であっても真摯に回答するよう心掛けている。

学習を促すアイデア

学習支援の一環として、カウンター横の「一日一問」、正面入口から入った右側に「心に残った名言」コーナーがある。

「一日一問」は英語や数学など毎日違った問題を出題しており、アカデミック・コアの人気コーナーになっている。過去の問題もファイリングしてあるため、いつでも問題に挑むことができる。

「心に残った名言」はアカデミック・コアを利用している学生からも名言を募り、スタッフがその時にあった名言を選択し掲示している。1週間ごとに新しい名言を張り変えており、こちらも過去に掲示した名言は手にとって読むことができる。

その他にも、Word, Excel, PowerPointの操作方法の紹介や、岐阜大学図書館の新着図書と学生スタッフが推薦する本の紹介を壁面ホワイトボードに掲載し、半月ごとに更新している。

「アカデミック・コア通信」

月2回、学生スタッフ主体で「アカデミック・コア通信」を発行している。内容は、アカデミック・コアのイベントや出来事について、なにげない日常から学べる「学習の広場」、アカデミック・コアで上映しているTED Talksの紹介である。その中でも「学習の広場」はアクティブ・ラーニングに結びつくような内容を選んで記事にしている。

5. 成果

さて次に、アカデミック・コアがオープンしてからの利用者数の推移など、いわばその成果に着目してみたい。

表2で示すとおり、利用者数は増加している。それも、休憩場所として使うのではなく、概ね学習をするために利用している。特に、7月末と1月末は試験期間のため、席が足らなくなるほどの盛況である。黙々と試験勉強をしているのではなく、グループで話し合いながら学習している姿を多く見かける。

表2 アカデミック・コア利用者数

令和元年12月2日時点

	月	火	水	木	金	合計	開室日数	平均／日
平成 27年度	7,121	8,578	8,284	7,398	6,955	38,336	199	193
平成 28年度	14,872	16,651	14,991	14,357	13,569	74,440	237	314
平成 29年度	15,540	18,497	18,189	16,654	14,799	83,679	237	353
平成 30年度	15,540	16,795	18,816	16,537	14,796	82,484	236	350
令和元年度	11,078	11,690	13,251	12,831	10,891	59,741	152	393

6. 課題

まずは、利用する学生の「学習の質」向上に関する課題である。オープン以降、利用者数が増加していることから分かるように、学生にアカデミック・コアを周知することについては完了しつつあると考えられる。アカデミック・コアでは、学生の「学習の質」を高める工夫として、学習相談や学習支援系のイベントなどを実施している。各学生スタッフの得意分野を発揮した取り組みではあるが、これらのイベント実施についてはまだ学生全体に周知できていないのが現状である。その証拠に、これらのイベントの中には、保健管理センターの教員が中心となって実施している「いこまいセミナー」と類似の企画もあるが、なぜか保健管理センターのそれに比べて参加者数が少ないことが悩みである。

対策として、教職員にそれぞれの身近にいる学生への周知を依頼する他、アカデミック・コアを利用する学生や図書館ツアーに参加した学生に対し、アカデミック・コアの学習支援に関するアンケート調査を適宜実施し、調査から得られた学生のニーズをもとに、さらにアカデミック・コアの学習支援に反映させていく必要があると考えている。加えて、現在は、一人一人の学生スタッフが、一つ一つのイベントを実施しているが、必ずしもこのスタイルに固執する必要はなく、他の学生スタッフが企画実施しようとするイベントに、助言や協力をし合う文化を確立していきたいと考えている。

プロジェクターやパソコンをつなぐモニターなど、ICT系の備品が、当初の想定ほどは活用されていないことも今後の考えてみたい事柄である。よりアナログな備品であるホワイトボードすら、これを積極的に用いている学生の姿を見ることは稀である。これらのことについては、課題と見做して改善策を練ることが妥当なのか、それとも、ICT系の備品が不可欠であると考えていた運営側の認識を見直すべきなのか、時間をかけて検討してみたい。

次に、学生スタッフに求めることである。アカデミック・コアの学生スタッフは、先述した学習相談や学習支援イベントなど、学生を対象とした取り組みを行っている。その他にも、

平成30年度には、教職員に向けたAIMS-Gifu講習会を、自ら主体となり企画、実施している。

また、学習相談では利用する学生の課題に対して、時には共に考えながら課題の解決を行っている。岐阜大学では、豊かな人間性を支える基盤的能力として、「進める力」、「伝える力」、「考える力」の3つを掲げているが、アカデミック・コアの学生スタッフは、これらの3つの基盤的能力を意識しながら様々な業務に取り組んでいると考えられる。過去の学生スタッフからは「学習相談などを通して、自分がこれまで学んできたことを見直すきっかけになった。相手に分かりやすく伝える工夫を考えるきっかけになった」という声も聞いており、学生スタッフとして勤務した経験は、基盤的能力の向上につながる。

一方で、学生スタッフには、もっと主体的に動くことを求めたいとも感じている。例えば、決められた作業をただ淡々とこなすだけでなく、アカデミック・コア内に点在する課題や上述のイベント等では把握しにくい利用者側のニーズを自ら探し出し、複数在職する学生スタッフたちが、自主的に定例ミーティング以外にも打ち合わせ会を実施するなど、積極的に解決しようとする姿を期待したい。もっとも、このためには、学生スタッフだけに頼るのではなく、学修支援部門所属の教員や常駐スタッフが、様々な仕掛けを設ける必要があるのかもしれない。

表3 学生スタッフ自身が成長したと認識する基盤的能力 (学部生のみ実施)

年度(人数)	進める力			伝える力			考える力		
	計画	実行	管理	傾聴	発信	把握	課題 発見	創造 思考	論理 思考
H27前期 (7)	5	4	2	6	3	2	4	2	3
H27後期 (7)	6	4	1	4	5	3	5	3	2
H28前期 (5)	4	2	0	1	2	3	3	1	1
H28後期 (7)	6	4	3	4	4	1	4	3	0
H29前期 (4)	3	4	1	1	4	1	2	3	1
H29後期 (4)	2	3	2	3	3	2	3	3	0
H30前期 (8)	6	7	4	6	6	2	3	6	4
H30後期 (7)	6	4	2	1	5	2	4	3	2
R1前期 (7)	7	7	2	2	7	3	4	4	3
合計	45	39	17	28	39	19	32	28	16

※複数回答あり。左端の欄の括弧内の数字が各学期の回答者数。

なお、上述の基盤的能力「進める力」、「伝える力」、「考える力」は、それぞれさらに3つの要素から成り立っている。表3の中に示す「計画」、「実行」など合計9つの要素がそれらに当たる。岐阜大学では、SAとして勤務したすべての学生に対して、勤務期間終了時に、SA

を経験したことでこれらの力がどの程度伸びたと考えているか、質問紙を用いてその自己認識を問うている。

表3は、SAである学部生・学生スタッフ自身の基盤的能力の伸びについて、アカデミック・コア開設以来の調査結果をまとめたものであるが、「進める力」のうち「計画」に関する能力が伸びたと認識している学生スタッフが多いことが分かる。その後には、同じく「進める力」の中の「実行」や、「伝える力」の「発信」が続いている。一人一人の学生スタッフが自らイベントを企画し、その広報のためのチラシを作成し、実際に講師役を務めていることが、こうした認識に寄与していると考えられる。

一方で、「管理」や「論理思考」については低い数値を示しており、これらを改善していくためには、今後、アカデミック・コア運営のより大局的な舵取りや、学内の他部署との関係を意識させるような業務をもっと経験させることが効果的ではと考えている。

最後に、試験期間に入るとグループ学習室も含め満席の状態になる。そのため、荷物による席の確保や学習室利用のルール違反などがあり、頭を悩ませている。大学内には、アカデミック・コア以外にどのような学習スペースが存在するのか、各学部と連携を密にすることでその情報を集約し、学生へ向けての情報発信をすすめていきたい。

【参考文献】

- ・ 国立大学岐阜大学（2015）『平成27年度事業報告書』,
https://www.gifu-u.ac.jp/about/financial_affairs/27jigyouthoukoku.pdf
（最終確認日2019年12月19日）。
- ・ 岐阜大学教育推進・学生支援機構「主体的な学びの場」,
https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/learning_supporting/ALS_academic_commons/academic_commons.html（最終確認日2019年12月19日）。
- ・ 金城学院大学「ラーニングコモンズ」, <http://www.kinjo-u.ac.jp/commons/pc/index.html>
（最終確認日2019年12月19日）。
- ・ 名古屋大学図書館ラーニング・コモンズ（2018）「イベント情報〔サポートスタッフ企画〕卒論30分講座」, <https://lc.nul.nagoya-u.ac.jp/event/?m=201809&cat=5>（最終確認日2019年12月19日）。
- ・ 小川渡（2019）「所沢図書館ラーニング・コモンズ開設後一年を振り返って」『早稲田大学図書館新報「ふみくら」』95号, 6項。
- ・ コクヨ株式会社ファニチャー事業本部（2018）「「学習の質」を高めるための「教室のデザイン」の考え方 ―カリフォルニア大学バークレー校―」, https://www.kokuyo-furniture.co.jp/manabi/topics/post_20.html（最終確認日2019年9月2日）。
- ・ 廣内大輔（2016）「ラーニング・コモンズの観点からみた『学びの拠点づくり』」, 平成28年3月4日弘前大学COC事業講演資料。

【謝辞】

今日のアカデミック・コアの繁栄はひとえに、岐阜大学の教職員と学生がその運営に快く協力してくださっていることに依る。

とりわけ本稿執筆に関しては、岐阜大学教育推進・学生支援機構学修支援部門の先生方、岐阜大学学務部教務課や岐阜大学図書館の職員の皆様、これまでにアカデミック・コアに勤務された常勤スタッフおよび学生スタッフの方々から有益な助言を頂いた。ここに記して感謝申し上げます。